ジャパネット杯 平成28年度 第40回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

3

男子 女子 2 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 グリーンアリーナ神戸 A コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名
名古屋経済大学市邨高等学校	32	17	7	小松商業高等学校
		15	10	
		-	-	
		-	-	
		-	-	
		7mTC		

大会初戦となる昨年度準優勝の名経大市邨と1回戦を突破した小松商業の対戦となった2回戦。

名経大市邨のキャプテン伊藤のステップシュートで先制したが、賺さず小松商業もキャプテンの

ミドルシュートが決まり試合開始。その後13番山本が連続得点。小松商業は7mスローをもらうが、

名経大市邨の攻撃の勢いを止めることができない。小松商業は前半8分にして早くもタイムアウト

を要求。その後、小松商業も点を取りに行くが、名経大市邨がすぐに取り返し、なかなか点差が縮ま

らない。中盤はお互い足が止まり出したが、小松商業は連続得点で食い下がる。20分を過ぎると、

小松商業の警告や退場により、名経大市邨がまたしても大きく突き放し、前半を終了した。

後半開始直後も名経大市邨の勢いは衰えず、連続得点。小松商業は6分、7分と連続シュートを

決めるが、DFが名経大市邨の速攻に追いつけず失点を重ねた。中盤は小松商業が3-3DFを仕掛け、

リズムを作り3連続得点で名経大市邨の勢いを止めにかかった。その後、名経大市邨はシュート

ミスが出始め、互角の戦いとなりかけたが、点差が縮まらず、名経大市邨が3回戦へ進んだ

2017年 3月 24日

記載者氏名 藤岡 秀行

ジャパネット杯 平成28年度 第40回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

4

男子 女子 2 回戦 ・準々決勝 ・準決勝 ・決勝

会場 グリーンアリーナ神戸 B コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名	
高津高等学校	26	13	—	12	北海道帯広三条高等学校
		13	—	6	
		—			
		—			
		—			
		7mTC			
			18		

初戦で県立清峰高校を下した高津高校と今大会初出場となる北海道帯広三条高校との対戦。

前半は高津高校のスローオフで試合開始。序盤は両校とも互角のたちあがりを見せ一進一退の攻防が続く。前半16分が過ぎたころ、帯広三条2番キャプテン米澤のミドルシュートが決まりこの試合で初めて2点差がつく。しかし高津も頻繁にメンバーチェンジを行い、得意の速攻で食い下がる。そして前半終了間際、高津11番有森のカットインプレーを皮切りに13番炭崎の気迫のこもったサイドシュートが2本連続で決まり逆転に成功する。そのまま13対12で高津が1点リードで前半終了。

後半開始直後、帯広三条は高さのある3-2-1ディフェンスでプレッシャーをかけるが、高津に空いた空間へのパスを通され3連続で失点してしまう。焦りからかオフェンスでも単調なミスが続き、後半10分の時点で3点のリードを許す。その後完全に主導権を握った高津がゲームをコントロールし、26対18で帯広三条を下した。帯広三条は初出場ながら堂々たる戦いを見せたが、高津が貫録をみせつけ次の試合にコマを進める結果となった。

2017年 3 月 25 日

記載者氏名 日高 優一

男子 ・ 女子 2回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 加古川市立総合体育館 コート

チーム名	総得点	7	—	4	総得点	チーム名
明光学園 高等学校	18	11	—	10	14	県立高松商業 高等学校
		7mTC				

3年連続3回目の出場となる明光学園と12年連続26回目の出場となる高松商業の実力校

同士の一戦。明光のスローオフから試合開始。両校とも堅い守りから、速攻を狙うスタイルを

とり、ほぼ互角の立ち上がり。シュートを放つもポストに嫌われる場面が目立つ。7分にして

高松9番宮地が初得点を決めるも、すぐさま明光6番今村がサイドシュートを決める。明光の

速い攻めに対して、高松は徹底した守備と12番三好の好セーブにより、両校譲らぬ展開。

守備から攻撃への冷静かつ迅速な判断、パスカットからのシュートを落ち着いて決めるなど、

少しずつ自分たちのペースを掴んできた明光が3点リードし、前半を終える。

後半、高松はダブルポストを使い、開始早々1点先制。しかし、多彩な攻めを続ける明光が

連続得点を続けるなど、粘る高松を振り切った。高松も得意の速攻からの3連続得点で見せ場は

作るも、要所で退場が出るなど主導権を奪えず、初戦敗退となった。

29年 3月 25日

記載者氏名 辺見 翔太

ジャパネット杯 平成28年度 第40回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

男2

男子 ・ 女子 2回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 神戸国際大学附属高等学校

チーム名	総得点		総得点	チーム名																					
県立小松工業高校	25	<table border="1"> <tr><td>15</td><td>—</td><td>12</td></tr> <tr><td>10</td><td>—</td><td>20</td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7mTC</td><td></td><td></td></tr> </table>	15	—	12	10	—	20	—			—			—			—			7mTC			32	駿台甲府高校
15	—	12																							
10	—	20																							
—																									
—																									
—																									
—																									
7mTC																									

2回戦、いずれも今大会初戦となる石川の県立小松工業（3年連続、14回目）と山梨の駿台甲府（5年連続、20回目）の対戦は、駿台甲府のスローオフで開始された。開始まもなく先制したのは、甲府6番鈴木のパストプレー、小松工業もすかさず、速攻で応戦。両チームとも速い動きで攻撃しあうも得点には結びつかず一進一退の攻防。甲府が1点取れば小松も取り返すという互角の戦いが続いた。

試合が動いたのは、26分12-12から、小松6番、8番が立て続けにシュートを決め14-12とリードした。終盤、甲府が激しく攻め立てるが、小松GK鍛冶の好セーブもあり得点できない。

終了間際、小松4番小西のミドルシュートが決まり、15-12、小松3点リードで前半を終了した。

後半の立ち上がりは、甲府ペース、小松がシュートミスを重ねる間に11番、5番のシュートが決まり（5点連取）、5分には17-15とリードを奪った。しばらくは点を取りあったが、18分頃から甲府が逆速攻などで得点を重ね、20分には27-21と差を広げた。後半、終始優位に試合を進め大きくリードした甲府が32-25と勝利し、3回戦へと駒を進めた。

29年 3月 25日

記載者氏名 小川 健三

戦 評 用 紙

男7

男子 ・ 女子 2回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 神戸市立中央体育館

チーム名	総得点	11	—	14	総得点	チーム名
岡山理大附属	27	16	—	21	35	小林秀峰
		—		—		
		—		—		
		—		—		
		7mTC				

秀峰のスローオフで試合開始。前半2分、理大附は16番石井の得点で均衡を破る。

一方の秀峰は7mスローを3番川畑が連続で決め、流れを引き寄せ。理大附は警告と

退場が続きなかなか攻めきれないが、相手DFのミスを突き速攻で得点を重ねる。両者

得点の機会はあるが、キーパーの好セーブにあい得点差はなかなか開かない。秀峰は

5番甲斐のサイドシュートで確実に得点を重ね、理大附は5番山本のロングで追いか

ける展開が続く。後半に入っても両者譲らず均衡が続く。7分、秀峰の6番甲斐のポス

トシュートをきっかけに流れは大きく秀峰へ傾く。さらに相手の5番山本にワンマーク

を付け理大附の得点を許さない。17分には理大附に退場が続き得点差が開く。理大附

も10番穂山の得点で必死に食らいつくが、秀峰のキーパー1番宮城の好セーブにも阻

まれ得点差を縮めることができずタイムアップ。終始安定した守りを見せた小林秀峰の

勝利となった。

29年 3月 25日

記載者氏名 薄井彰宏

戦 評 用 紙

13

男子 ・女子 2 回戦 ・準々決勝 ・準決勝 ・決勝

会場 高砂市体育館 コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名									
昭和学院	29	<table border="0"> <tr> <td>18</td> <td>—</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>—</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </table>	18	—	13	11	—	14	—	—	—	27	中部大春日丘
18	—	13											
11	—	14											
—	—	—											

立ち上がり昭和学院がキャプテン青沼の連続ゴールなどで4-1とリードするが、中部大春日丘も粘りを見せ、8分過ぎには4-4の同点とし追い上げを見せる。その後試合は一進一退の攻防が繰り広げられる展開となったが、昭和学院が堅い守備とゴールキーパー藤田の好セーブにより、中部大春日丘の攻撃をしのぎ、11-7と再びリードを広げる。ここで中部大春日丘はタイムアウトを取り、試合の流れを再び仕切りなおす。その後両チーム互いに譲らず得点を重ね、前半は18-13と昭和学院のリードで折り返した。後半は、中部春日台が序盤から着実に得点を重ね、主導権を握った。岩村、斎藤、榊原などの得点で徐々に昭和学院を追い上げる。中部春日台は昭和学院の猛攻を防ぎ、4連続得点をもぎとり後半16分ついに昭和学院に追いつき試合を振り出しに戻した。試合は終盤までどちらに転ぶかわからない展開となったが、前半をリードして折り返した昭和学院が意地を見せ、中部春日台を守り切った。29-27という接戦を制した昭和学院が3回戦へと駒を進めた。

29年 3月 25 日

記載者氏名 原田 真行